

芸術dance「平原慎太郎×スズキ拓朗 ダブルダブルダンス」公演

1月9日(土)~10日(日) シアターイースト

詳細はP11へ



写真：HARU

まるで「ガラスの仮面」のマヤとアユミ。

たとえばビートルズとストーンズ。たとえばオアシスとブラー。たとえば長嶋と王。

2つの超新星が登場する時、シーンは変わります。20世紀末に黄金期を迎えた日本コンテンポラリーダンスシーン。あの頃は2つどころか幾つものダンスカンパニーが煌星のごとく登場し、舞台業界に旋風を巻き起こしました。僕がプロデュースする近藤良平主宰のコンドルズが活動を始めたのもその時期です。

しかし、あれから約20年、コンテンポラリーダンスの歩みは順風満帆ではありませんでした。あまたのダンスカンパニーが解散、活動休止、縮小。その退却戦の中で僕たちコンドルズはなんとか孤軍奮闘、悪戦苦闘を続け、破格の観客動員を維持してきました。日本コンテンポラリーダンス界の2度目の黄金期を夢見つつ、待ち焦がれつつ。しかし、その時は遂にやってきたのです。

平原慎太郎、スズキ拓朗という2つの超新星が颯爽と登場したのです。平原慎太郎。この男は圧倒的な身体能力と経験値、確固たるメッセージ性を宿した芸術性の高い作風が醍醐味。スズキ拓朗。この男は破天荒なアイデアとダイナミックな演出を魅力とする大衆性が高い作風が大評判。まるで「ガラスの仮面」のマヤとアユミ。全くタイプが違う2人。そんな2人が同時期に頭角を現したのは奇跡。と同時に啓示です。「シーンが変わる」という啓示。

だからといって、かつてのような黄金期はやって来ないかもしれません。日本コンテンポラリーダンスの現状を冷静に判断すれば、決して勝ち目の大きい闘いではありません。しかし、それでも2人は、次世代のシーンを創り上げるための挑戦をいとわないでしょう。なぜなら、2人はタイプは違いますが、全く同じ信念をたった1つ、胸に宿しているからです。「コンテンポラリーダンスは絶対に面白い」そんな極めてシンプルでタフな信念を宿しているからです。

皆様ぜひとも、この愚直とも呼べる尊い情熱を燃やす2人の男を見に来ていただけないでしょうか。この世界に、これほど純度の高いモノは滅多にないのですから。

文：勝山康晴(コンドルズプロデューサー)

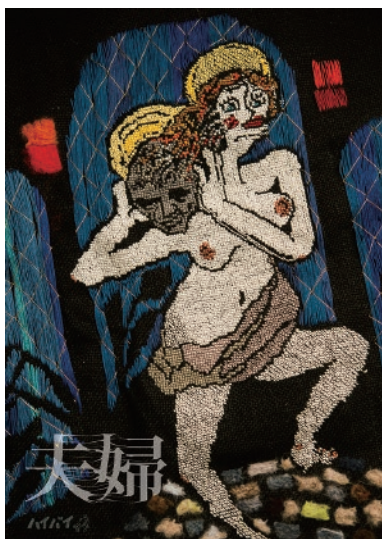
構成・振付：平原慎太郎／スズキ拓朗 出演：平原慎太郎／スズキ拓朗／柿崎麻莉子／清水ゆり

主催：ROCKSTAR
提携：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

ハイバイ「夫婦」

1月24日(日)~2月4日(木) シアターイースト

詳細はP12・13へ



©平岩 享

実父の死を取材した岩井秀人が人生の仕舞い方を描く最新作。

自らの実体験や綿密な聞き取り取材に基づき、現代人の生き様をユーモラス且つヴィヴィッドに描く岩井秀人。2012年に向田邦子賞、2013年に岸田國士戯曲賞を受賞し、その動向が注目される気鋭の劇作家・演出家が、自身のホームグラウンドである劇団「ハイバイ」に、待望の最新作『夫婦』を書き下ろす。

引きこもり、家族間関係、不倫愛など、他人との距離感やコミュニケーションの在り方について鋭い嗅覚を働かせ、そこから「一筋縄ではいかない現代社会のやり切れなさ」を鮮やかに浮かび上がらせてきたハイバイが、最新作のテーマに選んだのは「人生の仕舞い方」だ。2014年10月に実父との死別を経験した岩井が、命あるものにとって避けることの出来ない死という問題に改めて向き合う。ハイバイ作品に馴染みのある方には周知の事実だが、劇団の代表的一作である『て』に登場する父親は、この実父がモデル。同作では、傲慢無礼な性格をことさら強調した父親像を中心に、複雑な親子間、兄弟間、そして夫婦間関係を描いた。2016年1月~2月に上演を控えた最新作は、この夫婦の半生にスポットを当て、その成り立ちから死別による崩壊までをしっかりと見つめた一作となる。

モデルとなっている実父の死因は癌であり、最新鋭の手術を受けたにも関わらず、医療ミスのような形でこの世を去った。しかも実父は外科医だったという。日本人の死因率上位をしめるこの病氣と、それにまつわる医療の数々。見送る者、見送られる者、その者の数だけ無念さが残る。決して他人事として片付けられない物語になるのは、もはや間違いない。

私たちは、時として血縁という価値を疑いたくってしまう程、多様化された社会システムの中に生きている。しかし、心のどこかでその強固な繋がりを大切にしているのも紛れもない事実である。その血縁というものを生み出す大本でありながら、他人同士の繋がりにある「夫婦」という単位をモチーフに、ハイバイがどのようなリアルをあぶり出すかは必見だ。

文：園田喬し(演劇ライター／『BITE』編集長)

作・演出：岩井秀人 出演：山内圭哉／岩井秀人／平原テツ／川面千晶／鄭 亜美／田村健太郎／高橋周平／猪股俊明／菅原永二

主催：quinada／ハイバイ
提携：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇+トーク 朗読「東京」第四回

2月19日(金)~21日(日) シアターイースト

詳細はP14へ



松村 武



眞鍋卓嗣



喜安浩平

東京を読み、東京を語る。
人気企画の第4弾。

松村 武 × 眞鍋卓嗣 × 喜安浩平

(カムカムミニキーナ)

(俳優座)

(ナイロン100℃/ブルドッキングヘッドロック)

“東京”が描かれた小説・戯曲を二人の俳優が朗読する第一部と、出演者らが“東京”について語るトークの2部構成でお送りするリーディング企画。各作品を担当する演出家たちが、観客を楽しませるために工夫を凝らす演出も見どころのひとつ。2015年1月に行われた第3回では、若手演出家・山本卓卓(範田遊泳)が自身の得意とする映像・照明・音楽を駆使した手法で、長く親しまれた純文学や古典落語を新しい切り口で魅せた。第4

回にあたる今回は、松村武(カムカムミニキーナ)、眞鍋卓嗣(俳優座)、喜安浩平(ナイロン100℃/ブルドッキングヘッドロック)、同じ70年代生まれの演出家ながら、それぞれの作風で活躍する3人が思い入れのある「東京」にまつわる作品に挑む。朗読作品、出演者は1月に発表予定。ご期待ください。

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都/アーツカウンシル東京/豊島区

ブロードウェイミュージカル「スウィーニー・トッド」

4月14日(木)~5月8日(日) プレイハウス

詳細はHPへ



最強のトライアングルが奏でる至極のミュージカル。

日本の演劇界最大のビッグネーム、市村正親、大竹しのぶ、宮本亜門が、再び顔を合わせる。現代ミュージカルの巨星ステイヴン・ソンドハイムの代表作「スウィーニー・トッド」。トニー賞をはじめ数々の賞を総なめにした斬新な感動作に、共演として武田真治、芳本美代子、田代万里生、唯月ふうか、斉藤暁、安崎求という超個性派キャストが集結。ティム・バートン、ジョニー・デップの名コンビでも映画化。18世紀のロンドンに実在したという恐怖の理髪師の痛快で哀しい復讐の物語。パイ屋のお茶目なおかみミセス・ラヴェットと手を組み、理髪師としての腕を生かして、彼が考え出した大胆で奇想天外な復讐の方法とは…?

世界が戦火と報復テロに脅かされ、国内でも猟奇的な事件が多発する今、この作品の送るメッセージは私たちの心に深く熱く突き刺さる。

演出・振付：宮本亜門

出演：市村正親 大竹しのぶ/芳本美代子/田代万里生 唯月ふうか/安崎 求 斉藤 暁/武田真治 ほか

主催：フジテレビジョン/ホリプロ

共催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

COMING UP NEXT 2016.4-7

2016.4-7 演劇・ダンス ラインナップ

モダンスイマーズ 新作公演 作・演出：蓬莱竜太
4月22日(金)~5月3日(火・祝) シアターイースト

eyes plus □□ 脚本・演出：三浦直之
5月下旬 シアターイースト

eyes plus 木ノ下歌舞伎 監修・補綴：木ノ下裕一
6月上旬 シアターイースト

「887」 作・演出：ロベール・ルパーージュ
6月中旬 プレイハウス

芸劇eyes 中野成樹+フランケンズ
「えんげきは今日もドラマをライブする vol.1」
6月18日(土)~26日(日) シアターイースト

芸劇dance 束芋×森下真樹
映像芝居「錆からでた美」
構成・演出：束芋
7月上旬 シアターイースト
一般発売：4月23日(土)